

ひまわり在宅サポートグループ ひまわり訪問看護ステーション

菊地 雄一（作業療法士／ひまわり訪問看護ステーション）

功 績	日々の訪問リハに加えて、関連施設との連携を日々模索し、グループホームや有料老人ホーム等の課題をしっかりと分析したうえで、施設へ直接訪問し、代表者、職員へのプレゼンを経たうえで、施設間契約を締結し、ひまわり在宅サポートグループが提供するリハビリテーションの価値を向上させた功績。
推 薦 者	菊地教美（科長／ひまわり訪問看護ステーション）
推 薦 理 由	自分に課された業務をしっかりとこなすことはもちろんのこと、業務を通じて知り合った介護施設の職員とも普段より連携し、耳を傾け、課題を整理したうえで自分自身の新たな業務をクリエイティブした功績は大きく、地域におけるひまわりの評価を著しく高めた功績は理事長賞に値すると思え推薦させて頂きたく存じます。

内 容

菊地は入職5年目になる、ひまわり訪問看護ステーションで最も若い男性職員です。片道1時間かかる場所にも喜んで訪問に向かう、エネルギーで前向きなところが職員、利用者さん双方に好かれる所以です。

そんな菊地が自ら仕事を通じて出会った、他法人の施設介護職員から相談を受けます。『自分たちの仕事が本当に利用者さんの身体機能の維持向上に役に立っているのかわからない』『身体機能を客観的に見ることが出来るようになりたいが、施設にはセラピストがいない』

病院でしか働いたことのない菊地は、ひまわり訪問看護ステーションの看護師、セラピストに相談し、施設の実情と課題をPowerPointにまとめ、どうしたらその職員の悩みを解決してあげられるかを必死に考えました。他法人のこととはいえ、同じ介護業界で働いている悩みを持つ仲間の役に立ちたい一心で、スライドを何度も作成し、そしてその施設の施設長に直接お会いする機会を得ることに成功します。その結果、スライドに大きく感銘を受けた当該施設の施設長が、職員へこの資料をプレゼンしてほしいと菊地に依頼。職員30名へのプレゼンの機会を得ました。

プレゼン当日、菊地は、施設として何をしたらいいのか、ひまわりとしてどう関わられるのかを30分程度お話ししました。多くの職員から、是非指導をお願いしたいという声を多数頂き、最終的に、週1回、2時間程度、当該施設職員への身体介助指導、研修、ADL維持等加算取得補助の名目で、施設間契約の締結に至りました。

当該施設はその後、ADL維持等加算を取得したほか、職員間でリハビリテーションへの関心が高まり、独自の勉強会を立ち上げるなどの内部への変化に寄与した他、看護師による訪問看護の依頼へも繋がるケースが増加するなどの経営的なプラスにも貢献するなど、多大な影響があった取り組みとなりました。

ひまわり在宅グループはもちろんのこと、他施設、その利用者さんに良い影響を与える取り組みは正に三

方良しを実現した素晴らしいケースであったこと、それに至る菊地の絶え間ない努力は理事長賞に値する
と考え、推薦いたします。